

公認心理師の職業選択動機尺度の開発

関連キーワード： 公認心理師、職選択動機、仕事コミットメント

研究内容

本研究では、公認心理師の職業選択動機およびキャリア形成過程について、養成課程在学中から就労後までを視野に入れた包括的な検討を行うことを目的とする。公認心理師の職業選択動機やキャリア形成過程に関する実証的知見を蓄積すると同時に、その成果を学部・大学院教育カリキュラム改善や教育設計に還元することを目指す。

職業選択動機は、個人が特定の職業を志向する際の心理的背景を明らかにする概念であり、多面的な構成要素から成る（Super, 1990）。対人援助職の職業選択におけるこれまでの研究では、教師・看護師・医師といった他の専門職を対象に、動機の構造と職業意識・就業意図との関連が多く検討されてきた。一方、公認心理師の場合、資格制度自体が比較的新しく、職業的アイデンティティやその職業選択動機に関する研究の蓄積はまだ十分とはいえない。公認心理師は教員や看護師など他の職業と比べて職業そのものの社会的認知度に差があり、多次元かつ未分化な動機の混在が生じている可能性がある。さらに、公認心理師資格の国家資格化に伴い、各大学・大学院でカリキュラムの標準化が進んだ結果、進路選択における多様性が縮小していることも指摘されている。

また、職業選択動機は就労後にも重要な影響を及ぼしている可能性が考えられる。対人援助職一般においては、職業選択時に形成された動機づけが、職務満足感、バーンアウト、離職意図などと関連することが指摘されてきた。さらに、公認心理師は、資格取得までに長期間の専門教育を要する一方で、就労後の職域や雇用形態が多様であり、必ずしも安定したキャリアパスが保証されているわけではない。このような専門職においては、「なぜその職業を選択したのか」という初期の動機づけが、困難な就労環境への適応や、心理職としての職業的アイデンティティの形成において、重要な心理的資源として機能する可能性がある。

研究者プロフィール

人間科学部心理行動学科 教授 井川純一
（専門領域）産業・組織心理学、社会心理学
（テーマ）バーンアウト、SNS、恐怖喚起広告など
所属学会 日本心理学会など



主な経歴

バーンアウト尺度の比較——邦訳版尺度の妥当性と信頼性の検討——
Does Enthusiasm for Work Lead to Typical Burnout? A
Three - Wave Panel Study with Caregivers

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ

本研究の成果は、心理職人材の育成と定着に資するものであり、大学・大学院（学）、医療・福祉・教育機関（産）、自治体（官）を結ぶ産学官連携の対象となりうる。学生の職業選択動機に関するデータを活用し、実習配置やキャリア支援に応用することで、就職後のミスマッチや早期離職の低減が期待される。

また、本研究で開発される職業選択動機尺度は、教育および人材マネジメントの実務に応用可能である。大学におけるキャリア教育支援ツールとしての活用に加え、現場機関における採用・配置や継続教育の設計において、個人の動機に応じた支援を行うための基盤となる。今後オンライン診断ツールとしてのパッケージ化や、データに基づくキャリア支援コンサルテーションの展開が想定される。

研究者への連絡先

- ・ junsama 【at】 tohoku-gakuin.ac.jp
- ・ 研究者HP <https://junsama.net/>